

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-7 災害に強い県土づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 河川課長 田中 悟 電話番号 0852-22-5195

事務事業の名称	ダム建設事業	
目的	(1) 対象	下流域の人命、財産及び河川環境
	(2) 意図	洪水被害の軽減と河川維持用水の確保
事業概要	○浜田河川総合開発事業：浜田市街地の洪水被害軽減と河川維持用水確保のために、既設浜田ダムを再開発するとともに第二浜田ダムを建設する。 ○波積ダム建設事業：都治川下流域の洪水被害軽減と河川維持用水確保のために、波積ダムを建設する。 ○矢原川ダム建設事業：三隅川下流域の洪水被害軽減のために、矢原川ダムを建設する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	工事進捗率	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	当該年度までの事業費/全体事業費	目標値		41.80	47.70	
			実績値	36.70	35.60	43.20	56.10		
			達成率		85.20	90.60	99.90		%
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
	目標値		0.00	0.00					
式・定義	実績値	0.00	0.00	0.00					
	達成率		0.00	0.00			%		

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	5,340,144	7,263,299
うち一般財源 (千円)	276,372	368,550

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	(未選択)
---------------------	-------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

ダム事業全体計画等に基づき事業を執行
 浜田川総合開発事業・・・第二浜田ダム本体建設工事、浜田ダム再開発工事、付替道路工事の促進
 波積ダム建設事業・・・付替道路工事及びダム本体関連調査設計の促進
 矢原川ダム建設事業・・・用地補償調査及びダム本体・付替道路関連調査設計の促進
 ただし、波積ダム建設事業、矢原川ダム建設事業は、ダム検証に約3年を要したことから、事業効果の発現に遅れが生じている

6. 成果があったこと（改善されたこと）

各事業共に予算配分は要望額を下回ったが、次のとおり事業進捗に必要な所要額は確保された。
 ・浜田川総合開発事業は、10月の第二浜田ダムの試験湛水に向け、ダム本体工事、管理設備工事は概ね完成
 ・波積ダム建設事業は、ダム本体工事着手へ向け、本体実施設計を実施
 ・矢原川ダム建設事業は、用地補償基準締結に向け、測量・調査・設計に着手

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 H27年度の各ダム事業の予算配分は要望額に対し、浜田川総合開発事業が0.89倍、波積ダムが0.39倍、矢原川ダムが0.58倍となり、次年度以降も同様な配分となった場合、波積ダム、矢原川ダムについては計画工程に基づいた事業進捗への影響が懸念される。
- ②困っている状況が発生している「原因」
 ダム検証後の全国的な補助ダム建設事業の再開に伴い、国の予算配分はダム本体工事中の事業（全国39事業中21事業）を優先する方針であり、本体工事未着手の波積ダム、矢原川ダムについては要望どおりの予算配分が厳しい状況となっている。
- ③原因を解消するための「課題」
 計画工程内完成に必要な予算確保と工期短縮等による事業進捗の効率化。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

ダム建設事業の早期完成に向け必要な予算確保と工期短縮に努め、効率的な事業進捗を図る。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）